

中学部2年生修学旅行に行ってきました

新年を迎え間もない1月12日(水)～14日(金)、2泊3日の日程で中学部2年生の修学旅行を実施しました。行き先はタイ北部のチェンマイ・チェンライとその周辺です。この修学旅行にむけて、生徒たちは「行って驚き、知って納得@Thailand」というスローガンのもと、4つの目標を掲げました。

- ①私たちが生活している国、タイを理解しよう。
- ②タイの生活、文化、習慣に触れることで、タイを理解するとともに、海外でも通用する人になる。
- ③学校外でのさまざまな活動を通して、積極的に行動し、クラスの絆を深め、社会に出るための力を磨く。
- ④集団行動を通して、相手のことを考えた言動をし、互いに充実感や達成感を手に入れる。

この目標のもと、今までの学校生活で身につけてきた力を、学校から離れても発揮できるかを試す旅に出発しました。前年度までは姉妹校のバンコク日本人学校と一しょに実施していましたが、今年からはシラチャ校単独開催としました。

初日は、タイ最北県の県都、チェンライを訪問。山道にゆられながら、現在の王様のお母さまが晩年を過ごされた「ドイトウン」を見学しました。また、国境の街メーサイ、ゴールドトライアングルまで足を伸ばしました。すぐそこにミャンマー、ラオスを臨み、海洋国である日本にはない、陸続きの国境を体感しました。すぐ近くのチェンセーンという町ではワットパサクという遺跡を訪れ、かつて王朝として栄えた名残を見ながら、歴史に思いを馳せました。夜は、歩いてチェンライのナイトバザールへ。家族や友だちへのお土産選びに一生懸命で、生徒たちは皆、大きな袋をぶら下げて帰り道を歩きました。

ゴールドトライアングル



メコン川をタイから撮影、右岸はラオス、奥はミャンマー

2日目は、この修学旅行の学びのメインとなる、山岳民族についての学習に取り組みました。修学旅行前に、事前学習として「タイの山岳民族について」「民族とは何か？」と題して調べ学習や、発表会を行いました。それらを活かしての現地での学習となりました。まず「タンマチャーリ校」という山岳民族の子どもたちが通う現地の学校を訪問しました。アカ族、ヤオ族、ラフ族など複数の山岳民族の子どもたちがともに学ぶ学校で、タイのカリキュラムに沿って授業が行われていました。中学生と交流をさせていただき、お互いに出し物を発表し合ったり、授業に加わらせていただいたりしました。現地の中学生からたくさんの質問を受けて、少々緊張気味の本校生徒でしたが、充実した時間を過ごしました。また、美しい刺繍の記念品をいただきました。その後、山岳民族の村を訪れました。機織りや竹細工など伝統工芸を守って生活しているようす、それぞれの民族によって異なる美しい民族衣装など、驚きの連続でしたが、生徒たちにとって一番印象に残ったのは、「首長族」とよばれる「パドウン・カレン族」の村への訪問でした。4kgもある真鍮の首輪を身につけている姿にびっくりし、民族の違い、文化の違いを強く感じました。



交流学习のようす

「首長族」と呼ばれるカレン族の方と

その後、チェンライ周辺の寺院を3カ所訪問しました。タイの人の多くは仏教徒であり、よくお寺を訪れます。日本よりもお寺が身近な存在です。日本の寺院とは違い、タイの寺院は金色を基調としたきらびやかな建物が特徴です。それぞれの寺院に歴史と伝統があり、それを聞くだけでもたいへん興味深いものでした。生徒たちにとって一番印象に残ったのはそうした寺院ではなく、1997年から建設が始まった新しいお寺「ワットロンクン」でした。他のタイの寺院とは異なり、外観は白一色に統一されたまぶしいばかりの寺院です。その美しさに一同見とれていました。



白一色のワットロンクン

その日のうちにチェンマイへ移動し、夜は市内を散策しました。チェンマイは、1296年に興ったランナー・タイ王朝の都として栄えた街です。当時の街を取り囲んでいた城壁とお堀が、現在の街並みに調和し、とても美しい風情のある景色をつくり出しています。タイといえども、この時期の北部は気温が低く、心地よい夜風を感じながら、美しい街並みとゆったりと暮らす人々のようすを見ながら散策しました。

最終日は、チェンマイ近郊にあるメーサーエレファントキャンプと、チェンマイを代表する寺院のワットドイステープを訪問しました。メーサーエレファントキャンプでは、タイの象徴の一つともいえるゾウのショーを見たり、実際にゾウに乗って山中をトレッキングしたりしました。タイならではのアクティビティです。ワットドイステープは、標高1080mのステープ山の山頂にあります。400段近くある参道の階段を登ると、黄金の仏塔がそびえ立っている美しい寺院です。眼下にはチェンマイ市を一望でき、圧巻の景色を見ることができます。寺院内の壁には、お釈迦様の生涯を描いた壁画が描かれていますが、意外なことに生徒たちは、このお釈迦様の生涯にたいへん興味をもち、熱心にガイドさんの話に聴き入っていました。今月実施する学校行事「学習発表会」でこのことについても発表することにしています。たくさんの経験、楽しい思い出を胸に、チェンマイ空港から帰路につきました。飛び立った飛行機の窓の外には、夕やみ迫るステープ山の山頂にライトアップされた仏塔が輝いていました。



ゾウに乗ってトレッキング



ショーの中でゾウが描いたスケッチ。
その上手さにびっくり。
ちなみに6000バーツ(約1万7千円)。



ワットドイステープの仏塔

さて、冒頭に書いた修学旅行の目標について、最後にふれておきます。

①については、実に多くのことを知り、学ぶことができました。特に「民族の違い」や「陸続きの国境」というのは日本ではほとんど実感することができないものです。また、多くの遺跡や寺院を巡ることで、タイの歴史を学び、タイの人々の心に仏教が深く根ざしていることを改めて感じました。

②については、日本を離れて生活していることを活かして、この機会に海外などどこに行ってもどんな場面でも通用する力を高めようと設定した目標です。生徒たちは、さまざまな活動を通じて、自分たちとは異なる国や文化を認めたり受け入れたりする国際感覚を磨くことができたよ

うに思います。また、現地のガイドさんやホテルの方々、出会った人にきちんとあいさつやお礼を言ったり、積極的に話をしたりする姿勢が見られ、目標に掲げたような力を高めることができたと思います。

今まで学校生活でやってきたことを、学校を離れてもしっかりできるようにという思いで設定したのが③・④の目標です。修学旅行などの宿泊行事では、学校生活以上に相手や集団への気配りや配慮、思いやりや優しさが必要とされます。日頃の学校生活においても、仲よく助け合いながら生活している生徒たちですが、今回の修学旅行で改めて優しさや思いやりのあふれるクラスであることを感じました。

このように生徒たちは、設定した目標にしっかりと迫ることができ、お互いに楽しく充実した時間を得ることができました。クラスの絆を深め、ひとまわり成長することができた修学旅行となりました。

シラチャ日本人学校 21年度派遣 小川 誠